

サッカー(フットボール)

1. 適用するルール

スペシャルオリンピックス(SO)のサッカー公式スポーツルールは、全てのスペシャルオリンピックスサッカー競技において適用される。国際的なスポーツ組織として、スペシャルオリンピックス(SO)は国際サッカー連盟(FIFA)のルール(参照 <http://www.fifa.com/worldfootball/lawsofthegame.html>)を基に、スペシャルオリンピックス公式スポーツルールを定めた。スペシャルオリンピックスのサッカー公式スポーツルールおよびスポーツルール第I章 総則と矛盾する場合以外はFIFAあるいは日本サッカー協会(JFA)のルールが採用される。矛盾する場合は、スペシャルオリンピックスのサッカー公式スポーツルールが適用される。

ダウン症のアスリートの中で、環軸椎不安定症と診断されている人は、サッカーに参加できない場合もあります。

参考:スペシャルオリンピックス スポーツルール第I章 総則

http://www.son.or.jp/pdf/athlete/program/rule/general_rules.pdf

行動規範、トレーニング基準、医療および安全面の必要条件、ディビジョニング、表彰、上位レベルの競技会への進出条件とユニファイドスポーツを参照してください。

2. 公式種目

これらの種目は、あらゆる能力のアスリートに競技する機会を提供することを目的としている。各国プログラムは提供する種目、および必要に応じて、それら種目の運営方針を決定することができる。コーチは、それぞれのアスリートの技術と興味に応じて、適切なトレーニングの提供と種目を選択することに責任がある。

以下はスペシャルオリンピックスにおける公式種目の一覧である。

- 2.1 個人技能競技(ISC: Individual Skills Competition)
- 2.2 5人制チーム競技(屋外)
- 2.3 7人制チーム競技(屋外)
- 2.4 FIFA競技規則による11人制チーム競技
- 2.5 FIFA競技規則によるフットサル競技
- 2.6 ユニファイド・スポーツ® 5人制チーム競技
- 2.7 ユニファイド・スポーツ® 7人制チーム競技
- 2.8 ユニファイド・スポーツ® 11人制チーム競技

3. ディビジョニング

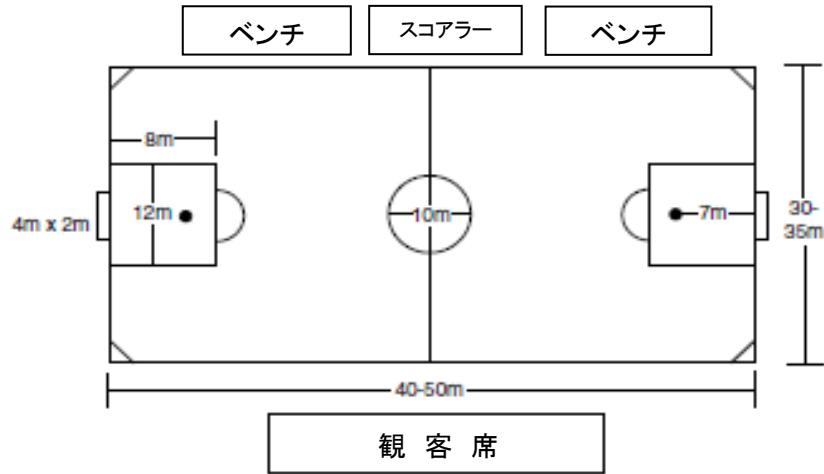
- 3.1 チームのディビジョニングは、セクションDに記載されているチーム技能評価表、“SOEE Divisioning DVD”に基づいたプレディビジョニングフォーム、もしくはプログラムが許可したディビジョニング/チームレイティングフォーム、および現地でのクラシフィケーション試合に基づいて行われる。
- 3.2 クラシフィケーションにおいて、チームは試合時間最低8分間(5人制)、8分間(7人制)、もしくは15分間(11人制)以上の最低2回の評価試合を行う。
- 3.3 ディビジョニング委員会は、全てのゴールキーパーの技術レベルを正しく評価しなければならない。

4. 競技ルール

4.1 5人制(屋外)フットボール

5人制(屋外)フットボールは、競技能力の低いアスリートのために、地区レベルでの実施形式として勧められており、世界大会レベルでは実施されない。

4.1.1 図



4.1.2 試合フィールド

- 4.1.2.1 5人制のフィールドは最大50m×35m、最小40m×30mの長方形とする。競技能力の低いチームには、より小さいフィールドが推奨される。
- 4.1.2.2 フィールドは図のようにマークする(5人制フィールドの図参照)。
- 4.1.2.3 ゴールサイズは最低3m×2mから最高4m×2mの間とする。
- 4.1.2.4 ゴールエリアは8m×12mとする。ゴールサイズが4m×2mの場合、ペナルティマークは7mの所でなければならない。ゴールサイズが3m×2mの場合、ペナルティマークは6mの所でなければならない。

- 4.1.2.5 芝生のフィールドが望ましい。

4.1.3 試合球

- 4.1.3.1 8～12歳の選手の試合:4号球。
ただし、外周63.5cm(25in)以上66cm(26in)以下とする。
- 4.1.3.2 その他の選手の試合:5号球。
ただし、外周68cm(27in)以上70cm(28in)以下とする。

4.1.4 選手数

- 4.1.4.1 登録可能な選手人数は競技委員会にて決定される。
- 4.1.4.2 対戦する2チームはそれぞれ選手5名で構成され、その内1人はゴールキーパーとする。
試合中、各チームは常に最低3名フィールド上にいなければならない。
- 4.1.4.3 交代回数は制限なし(一度交代しても復帰できる)。
交代はボールがアウトオブプレーの時、ハーフタイム中、ゴール後、または怪我による交代の時間であればいつでも可能である。
コーチは交代を主審、あるいは副審に合図しなければならない。
主審が交代の合図をしてから交代選手はフィールドに入る。

4.1.5 選手用具

- 4.1.5.1 上着には背番号をつける
- 4.1.5.2 すね当て(レガース)を着用
- 4.1.5.3 金属製のスタッドは禁止

4.1.6 主審

- 4.1.6.1 各試合は、競技会の規則を執行する全ての権限を持つ主審1人によって管理される。

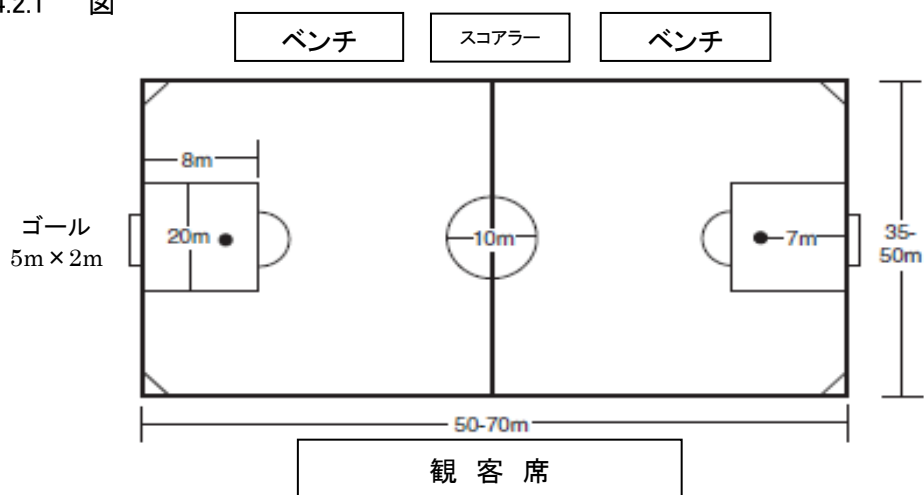
- 4.1.7 副審
- 4.1.7.1 リーショナルおよび国際大会には副審2人が配置される。国内のプログラムおよび競技会で副審の数が足りない場合、主審2名を配置することが推奨される。
- 4.1.8 試合時間
- 4.1.8.1 試合時間は前後半各15分、ハーフタイム5分とする。
主審は試合時間を管理すること。
- 4.1.8.2 同点の場合は5分ハーフの延長戦を行う。
それでも決着がつかない時はペナルティマークからのキックで勝敗を決定する。
- 4.1.9 キックオフ
- 4.1.9.1 他の選手に触られる前にセンターマークから前に向かって蹴りださなければならない。キックオフで直接ゴールした場合は得点となる。
- 4.1.9.2 ボールイン・アウトオブプレー
- 4.1.9.3 ボールがタッチラインを出た場合はキックインで再開する。
- 4.1.9.4 ボールがゴールラインを出たらゴールクリアランスかコーナーキックで再開する。
- 4.1.9.5 ボールの全体がラインを出たらアウトオブプレーとみなす。
- 4.1.10 ゴールクリアランス
- 4.1.10.1 相手チームの選手が最後に触れたボールがゴールラインを越えた場合、ゴールキーパーは自陣ペナルティエリア内からハーフウェーラインを越えない範囲でボールを投げ入れプレー再開とする(ハーフウェーラインを越える前にボールがグラウンドや他の選手に触れなければならない)。ボールがペナルティエリアを越えた時点でインプレーとみなす。
- 4.1.10.2 ゴールキーパーがインプレー中のボールを手で掴んだ場合も上記ルールが適用される。
- 4.1.10.3 反則・罰則
- 4.1.10.3.1 ゴールキーパーによって投げられたボールが他の選手やグラウンドに触れることなくハーフウェーラインを越えた場合は、主審は相手チームにハーフウェーライン上の任意の点から間接フリーキックを与える。
- 4.1.10.3.2 ゴールキーパーが投げたボールが自陣ペナルティエリア内でいかなる選手に触れた場合でも、やり直しとする。
- 4.1.11 得点方法
- 4.1.11.1 ボールの全体がゴール内のゴールラインを越えて、はじめて得点が認められる。
- 4.1.12 ファウルと違反行為(オフサイドルールがないことを除く)
- 4.1.12.1 トリッピング、プッシング、ハンド、またはチャージングの場合は直接フリーキック、オブストラクションや危険なプレーの場合は間接フリーキックが相手チームに与えられる。
- 4.1.12.2 退場となった選手(2回のイエローカード、もしくは1回のレッドカードを受けたとき)はそのゲームに再び出場することはできない。
その選手を欠いたチームは、2分間経過する前に相手が得点しない限り、2分間は1人少ない人数で試合を継続しなければならない。
この場合、以下の条件が適用される。
- 4.1.12.2.1 5人対4人で対戦中、5人のチームが得点した場合、4人でプレーしなくてはならない制限は解除される。
- 4.1.12.2.2 両チームが4人で対戦中に、どちらかのチームが得点した場合、両チームとも4人でプレーしなくてはならない制限は解除される。
- 4.1.12.2.3 5人対3人、もしくは4人対3人で対戦中、人数の多いチームが得点した場合、3人チームの方は1人だけ選手を加えることができる。
- 4.1.12.2.4 両チームとも3人で対戦中にどちらかのチームが得点した場合、両チーム共に選手を1人加えることができる。

- 4.1.12.2.5 人数が少ないチームが得点した場合は、そのまま選手数を変えずに試合を続ける。
- 4.1.12.2.6 2分間の計測はタイム計測員、または第4の審判員が実施。
2分間制限後の選手交代は、主審が交代を認め、ボールがアウトオブプレーになった時に認められる。
- 4.1.13 ゲーム再開の例外
 - 4.1.13.1 自陣のペナルティエリア内で与えられたフリーキックは、ゴールキーパーのスローインで再開される。
- 4.1.14 フリーキック
 - 4.1.14.1 全てのフリーキックで相手チームの選手は最低5m離れなくてはならない。
 - 4.1.14.2 間接フリーキックを攻撃中のチームがペナルティエリア内で得た際、それがゴールラインから5メートル以内である場合、主審はボールをゴールラインから5メートルの位置に配置しなければならない。
- 4.1.15 ペナルティキック
 - 4.1.15.1 ペナルティキックはゴールサイズによって7mライン、あるいは6mラインから行う。(上述の4.1.2.4を参照)
- 4.1.16 キックイン(11人制のスローインに相当)
 - 4.1.16.1 ボールが完全にタッチラインを越えたら、最後にボールに触れた選手の相手側チームが、ボールの出た場所からキックインする。
キックインされるまでのボールは静止していなければならない。
蹴られたボールが1回転したらインプレーとみなされる。
そのボールが他の選手に触れるまでキッカーは再びボールに触れることはできない。
相手チームの選手はキックインされるボールの場所から、最低5m以上離れなければならない。
 - 4.1.16.2 キックインからは直接得点はできない。
 - 4.1.16.3 ゴールキーパーは、キックインで戻されたボールを直接取ることはできない。
 - 4.1.16.4 ゴールキーパーはチームメイトから戻されたボールを直接取ることはできない。
- 4.1.17 反則・罰則
 - 4.1.17.1 キックインした選手が、他の選手が触る前に再度ボールに触れた場合は、その場所で相手チームに間接フリーキックが与えられる。
- 4.1.18 コーナーキック
 - 4.1.18.1 守備側の選手の触ったボールが自陣ゴールラインを越えた場合に相手チームに与えられる。
 - 4.1.18.2 相手チームの選手はボールから最低5m離れなければならない。
- 4.1.19 水分補給のための中断
 - 4.1.19.1 炎天下では、競技委員会から派遣された役員(競技責任者など)が、水分補給のための中断(最大3分間)を各ハーフのほぼ中盤で取るよう主審に合図することができる。
- 4.1.20 延長戦・ペナルティキック
 - 4.1.20.1 リーグ戦では引き分けで終了する。
 - 4.1.20.2 トーナメント方式での延長戦時間は、各5分とする。
 - 4.1.20.3 延長戦後もまだ同得点の場合、ペナルティキックで試合の勝敗を決めることとするが、その手順は以下の通りである。
 - 4.1.20.3.1 審判がどちらのゴールでキックをするかを定める。
 - 4.1.20.3.2 審判がコイントスをし、勝ったキャプテンのチームが先にキックするかどうかを定める。
 - 4.1.20.3.3 各チームから試合の終わりに競技フィールドにいる選手から5名選び、その順番を決める。

- 4.1.20.3.4 キックを5回行った後、得点の高いチームが勝者となる。審判がキックの記録を録る。
 - 4.1.20.3.5 以下に示す条件で、両チームがキックを5回ずつ行う。
 - 4.1.20.3.6 一蹴りごとにチームを交替しながら行う。
 - 4.1.20.3.7 5回ずつキックすることになっているが、もし、両チームが5回ずつキックする前に、片方のチームが、相手チームが得点可能な点よりも多くゴールをした場合は、キックは中止する。
 - 4.1.20.3.8 もし、両チームが5回ずつキックを終えた時点で、両チームが同点、あるいは共に0点の場合は、同じ順番でキックを行い、同じ数だけキックを行った時点で、片方のチームが相手方のチームより1点多くゴールしているまでキックを続ける。
 - 4.1.20.3.9 ペナルティマークの所からキックを行っている時にゴールキーパーが怪我をし、ゴールキーパーが続けられない場合は、名前登録がされている交替選手と交替してもよい。
 - 4.1.20.3.10 前述の場合以外は、延長戦があれば延長戦を含む試合の終わりに競技フィールドにいる選手のみがペナルティマークからキックをできる資格がある。
 - 4.1.20.3.11 試合が終わった時に、相手チームより選手の数が多かった場合は、人数を減らし、両チームが同数になるようにしなければならない。チームのキャプテンは、減らす選手の人数と名前を審判に伝えなくてはならない。審判は、センターサークルにいる両チームの選手が同じ数であるかを確かめなければならない、彼らがキックを行う。
 - 4.1.20.3.12 各選手がキックを行う。誰かが2回目のキックをする前に、有資格の選手は全員1回キックをしていなければならない。
 - 4.1.20.3.13 有資格の選手が全員1回キックをした後は、一巡目と同じ順番で選手がキックしなくてもよい。
 - 4.1.20.3.14 ペナルティマーク位置からキックがされている時は、有資格の選手はいつでもゴールキーパーと交替してもかまわない。
 - 4.1.20.3.15 ユニファイド・スポーツ®でのペナルティキックでは、各チームは、最初にアスリートがキックをし、その後アスリートとパートナーが交替でキックをしなければならない。
- 4.1.21 ベンチからの指導方法
- 4.1.21.1 各チームにはテクニカルエリアが与えられる。
 - 4.1.21.2 テクニカルエリアは長さ15mの長方形内とし、タッチラインから最低5m離れ、かつハーフウェーラインから10m以内の場所に設ける。
 - 4.1.21.3 チームベンチは各テクニカルエリア内に設ける。
 - 4.1.21.4 コーチおよび交代選手は常にチームベンチ領域内にいなければならない。コーチは1人のみ立ち上がってもかまわない。違反した場合には、コーチはフィールドから退場になることもある。
 - 4.1.21.5 コーチは試合中、言葉による応援と指導をすることが求められる。
 - 4.1.21.6 コーチが選手や役員を罵ったり、行き過ぎで不適切な助言を選手に与えたりすることは、スポーツマンシップに反する行為であり、審判は警告を与えることができる。警告後もそのような行為が続く場合は、主審はそのコーチを退場させることができる。

4.2 7人制フットボール

4.2.1 図



4.2.2 試合フィールド

- 4.2.2.1 7人制のフィールドは最大70m×50m、最小50m×35mの長方形とする。競技能力の低いチームには、より小さいフィールドが推奨される。
- 4.2.2.2 ゴールサイズは5m×2mとする。
- 4.2.2.3 ゴールエリアは8m×20mとする。
- 4.2.2.4 芝生のフィールドが望ましい。

4.2.3 試合球

- 4.2.3.1 8～12歳の選手の試合：4号球。
ただし、外周63.5cm(25in)以上66cm(26in)以下とする。
- 4.2.3.2 その他の選手の試合：5号球。
ただし、68cm(27in)以上70cm(28in)以下とする。

4.2.4 選手数

- 4.2.4.1 登録選手：登録可能な選手人数は競技委員会にて決定される。世界大会では12名を超えないものとする。
- 4.2.4.2 対戦する2チームはそれぞれ選手7名で構成され、その内1人はゴールキーパーとする。試合中、各チームは常に最低5名フィールド上にいなければならない。
- 4.2.4.3 交代回数は制限なし(一度交代しても復帰できる)。交代はボールがアウトオブプレーの時、ハーフタイム中、ゴール後、または怪我による交代の時間ならいつでも可能である。コーチは交代を主審、あるいは副審に合図しなければならない。主審が交代の合図をしてから交代選手はフィールドに入る。

4.2.5 選手用具

- 4.2.5.1 上着には背番号をつける
- 4.2.5.2 すね当て(レガース)を着用
- 4.2.5.3 金属製のスタッドは禁止

4.2.6 主審

- 4.2.6.1 各試合は、競技会の規則を執行する全ての権限を持つ主審1人によって管理される。

4.2.7 副審

- 4.2.7.1 リージョナルおよび国際大会には副審2人が配置される。
- 4.2.7.2 国内のプログラムおよび競技会で副審の数が足りない場合、主審2名を配置することが推奨される。

- 4.2.8 試合時間
- 4.2.8.1 試合時間は前後半各20分、ハーフタイム5分とする。
主審は試合時間を管理すること。
- 4.2.8.2 延長戦を行う場合は5分ハーフとする。
それでも決着がつかない時はペナルティキックで勝敗を決する。
- 4.2.9 キックオフ
- 4.2.9.1 ボールは、他の選手がボールに触れる前に、センターマークから前に向かって蹴り出されなければならない。
キックオフで直接ゴールした場合は得点となる。
- 4.2.10 ボールイン・アウトオブプレー
- 4.2.10.1 ボールがタッチラインを出た場合はキックインで再開する。
- 4.2.10.2 ボールがゴールラインを出たらゴールクリアランスかコーナーキックで再開する。
- 4.2.10.3 ボールの全体がラインを出たらアウトオブプレーとみなす。
- 4.2.11 ゴールクリアランス
- 4.2.11.1 相手チームの選手が最後に触れたボールがゴールラインを越えた(ゴール内ではなく)場合、ゴールキーパーは自陣ペナルティエリア内からハーフウェイラインを越えない範囲でボールを投げ入れプレー再開とする(ハーフウェイラインを越える前にボールがグラウンドや他の選手に触れなければならない)。
ボールがペナルティエリアを越えた時点でインプレーとみなす。
- 4.2.11.2 ゴールキーパーがインプレー中のボールを手で掴んだ場合も上記ルールが適用される。
- 4.2.12 反則・罰則
- 4.2.12.1 ゴールキーパーによって投げられたボールが他の選手やグラウンドに触れることなくハーフウェイラインを越えた場合は、主審は相手チームにハーフウェイライン上の任意の点から間接フリーキックを与える。
- 4.2.12.2 ゴールキーパーが投げたボールが自陣ペナルティエリア内でいかなる選手に触れた場合でもやり直しとする。
- 4.2.13 得点方法
- 4.2.13.1 ボールの全体がゴール内のゴールラインを越えて、はじめて得点が認められる。
- 4.2.14 ファウルと違反行為(オフサイドルールがないことを除く)
- 4.2.14.1 トリッピング、プッシング、ハンド、またはチャージングの場合は直接フリーキック、オブストラクションや危険なプレーの場合は間接フリーキックが相手チームに与えられる。
- 4.2.14.2 退場となった選手(2回のイエローカード、もしくは1回のレッドカードを受けたとき)はそのゲームに再び出場することはできない。
その選手を欠いたチームは、2分間経過する前に相手が得点しない限り、2分間は1人少ない人数で試合を継続しなければならない。
この場合、以下の条件が適用される。
- 4.2.14.1.1 7人対6人で対戦中、7人のチームが得点した場合、6人でプレーしなくてはならない制限は解除される。
- 4.2.14.1.2 両チームが6人で対戦中に、どちらかのチームが得点した場合、制限は解除される。
- 4.2.14.1.3 7人対5人、もしくは6人対5人で対戦中、人数の多いチームが得点した場合、5人チームの方は1人だけ選手を加えることができる。
- 4.2.14.1.4 両チームとも5人で対戦中にどちらかのチームが得点した場合、両チーム共に選手を1人加えることができる。
- 4.2.14.1.5 人数が少ないチームが得点した場合は、そのまま選手数を変えずに試合を続ける。

- 4.2.14.1.6 2分間の計測は時間計測員、または控えの審判が実施。
- 4.2.14.1.7 2分間制限後の選手交代は、主審が交代を認め、ボールがアウトオブプレーになった時に認められる。
- 4.2.15 ゲーム再開の例外
 - 4.2.15.1 自陣のペナルティエリア内で与えられたフリーキックは、ゴールキーパーのスローインで再開される。
- 4.2.16 フリーキック
 - 4.2.16.1 全てのフリーキックで相手チームの選手は最低5m離れなくてはならない。
 - 4.2.16.2 間接フリーキックを攻撃中のチームがペナルティエリア内で得た際、それがゴールラインから5メートル以内である場合、主審はボールをゴールラインから5メートルの位置に配置しなければならない。
- 4.2.17 ペナルティキック
 - 4.2.17.1 ペナルティキックは7mラインから行われる。その際、キッカーとゴールキーパー以外はペナルティエリアおよびペナルティアークの外に出る。ゴールキーパーはボールが蹴られるまでゴールライン上に留まっていること。
- 4.2.18 キックイン(11人制のスローインに相当)
 - 4.2.18.1 ボールが完全にタッチラインを越えたら、最後にボールに触れた選手の相手のチームがボールの出た場所からキックインする。キックインされるまでのボールは静止していなければならない。蹴られたボールが1回転したらインプレーとみなされる。そのボールが他の選手に触れるまでキッカーは再びボールに触れることはできない。相手チームの選手はキックインされるボールの場所から、最低5m以上離れなければならない。
 - 4.2.18.2 キックインからは直接得点はできない。
 - 4.2.18.3 ゴールキーパーは、キックインで戻されたボールを直接取ることはできない。
 - 4.2.18.4 ゴールキーパーはチームメイトから戻されたボールを直接取ることはできない。
- 4.2.19 反則・罰則
 - 4.2.19.1 キックインした選手が他の選手が触る前に再度そのボールに触れた場合は、その場所で相手チームに間接フリーキックが与えられる。
- 4.2.20 コーナーキック:
 - 4.2.20.1 守備側の選手の触ったボールが自陣ゴールラインを越えた場合に相手チームに与えられる。
 - 4.2.20.2 相手チームの選手はボールから最低5m離れなければならない。
 - 4.2.20.3 炎天下では、競技委員会から派遣された役員(競技責任者など)が、水分補給のための中断(最大3分間)を各ハーフのほぼ中盤で取るよう主審に合図することができる。
- 4.2.21 延長・ペナルティキック
 - 4.2.21.1 リーグ戦では引き分けで終了する。
 - 4.2.21.2 トーナメント方式で延長戦を行う場合は5分ハーフとする。
 - 4.2.21.3 延長戦終了後もまだ同得点の場合、ペナルティキックで試合の勝敗を決めることとする。
 - 4.2.21.3.1 審判がどちらのゴールでキックをするかを定める。
 - 4.2.21.3.2 審判がコイントスをし、勝ったキャプテンのチームが先にキックするかどうかを定める。
 - 4.2.21.3.3 各チームから試合の終わりに競技フィールドにいる選手から5名選ぶ。
 - 4.2.21.3.4 キックを5回行った後、得点の高いチームが勝者となる。審判がキックの記録を取る。

- 4.2.21.3.5 以下に示す条件で、両チームがキックを5回ずつ行う。
- 4.2.21.3.6 一蹴りごとにチームを交替しながら行う。
- 4.2.21.3.7 5回ずつキックすることになっているが、もし、両チームが5回ずつキックする前に、片方のチームが、相手チームが得点可能な点よりも多くゴールをした場合は、キックは中止する。
- 4.2.21.3.8 もし、両チームが5回ずつキックを終えた時点で、両チームが同点、あるいは共に0点の場合は、同じ順番でキックを行い、同じ数だけキックを行った時点で、片方のチームが相手方のチームより1点多くゴールしているまでキックを続ける。
- 4.2.21.3.9 ペナルティマークの所からキックを行っている時にゴールキーパーが怪我をし、ゴールキーパーが続けられない場合は、名前登録がされている交替選手と交替してもよい。
- 4.2.21.3.10 前述の場合以外は、延長戦があれば延長戦を含む試合の終わりに競技フィールドにいる選手のみがペナルティマークからキックをできる資格がある。
- 4.2.21.3.11 試合が終わった時に、相手チームより選手の数が多かった場合は、人数を減らし、両チームが同数になるようにしなければならない。
チームのキャプテンは、減らす選手の人数と名前を審判に伝えなくてはならない。
審判は、センターサークルにいる両チームの選手の数が同じであるかを確かめなければならない、彼らがキックを行う。
- 4.2.21.3.12 各選手がキックを行う。誰かが2回目のキックをする前に、有資格の選手は全員1回キックをしていなければならない。
- 4.2.21.3.13 有資格の選手が全員1回キックをした後は、一巡目と同じ順番で選手がキックしなくてもよい。
- 4.2.21.3.14 ペナルティマーク位置からキックがされている時は、有資格の選手はいつでもゴールキーパーと交替してもかまわない。
- 4.2.21.3.15 ユニファイド・スポーツ®でのペナルティキックでは、各チームは、最初にアスリートがキックをし、その後アスリートとパートナーが交替でキックをしなければならない。

4.2.22 ベンチからの指導方法

- 4.2.22.1 各チームにはテクニカルエリアが与えられる。
- 4.2.22.2 テクニカルエリアは長さ15mの長方形内とし、タッチラインから最低5m離れ、かつハーフウェーラインから10m以内の場所に設ける。
- 4.2.22.3 チームベンチは各テクニカルエリア内に設ける。
- 4.2.22.4 コーチおよび交代選手は常にチームベンチ領域内にいなければならない。
コーチは1人のみ立ち上がってもかまわない。
違反した場合には、コーチはフィールドから退場になることもある。
コーチは試合中、言葉による応援と指導をすることが求められる。
- 4.2.22.5 コーチが選手や役員を罵ったり、行き過ぎで不適切な助言を選手に与えたりすることは、スポーツマンシップに反する行為であり、審判は警告を与えることができる。
警告後もそのような行為が続く場合は、主審はそのコーチを退場させることができる。

4.3 11人制フットボール

4.3.1 試合フィールド

- 4.3.1.1 11人制のフィールドは長方形とする。
タッチラインの長さはゴールラインの長さよりも長くなくてはならない。
- 4.3.1.2 フィールドの広さは最大120m×90m、最小90m×45mとする。
- 4.3.1.3 ゴールサイズは7.32m×2.44mとする。

- 4.3.1.4 芝生のフィールドが望ましい。
- 4.3.2 試合球
 - 4.3.2.1 8～12歳の選手の試合：
4号球。ただし、外周63.5cm(25in)以上66cm(26in)以下とする。
 - 4.3.2.2 その他の選手の試合：
5号球。ただし、外周68cm(27in)以上70cm(28in)以下とする。
- 4.3.3 選手数
 - 4.3.3.1 登録可能な選手人数は競技委員会にて決定される。世界大会では16名を超えないものとする。
 - 4.3.3.2 対戦する2チームはそれぞれ選手11名で構成され、その内1人はゴールキーパーとする。試合中、各チームは常に最低7名フィールド上にいなければならない。
 - 4.3.3.3 交代選手：
登録選手は全員交代することができる。
しかし、一度交代したら交代した選手はそのゲームに復帰することができない。
このルールについては、競技委員会が(競技能力の低いディビジョン等で)著しく試合展開に悪影響を与えると判断した場合、例外規定を設けることができる。
この場合は、一度ベンチに退いた選手も復帰が可能となる“無制限”の交代が認められる。どのルールを適用するかは事前に十分に参加チームに知らせておかなければならない。
- 4.3.4 選手用具
 - 4.3.4.1 上着には背番号をつける
 - 4.3.4.2 すね当て(レガース)を着用
 - 4.3.4.3 金属製のスタッドは禁止
- 4.3.5 主審
 - 4.3.5.1 各試合は、競技会の規則を執行する全ての権限を持つ主審1人によって管理される。
- 4.3.6 副審
 - 4.3.6.1 各試合に副審2人が配置される。
- 4.3.7 試合時間
 - 4.3.7.1 競技委員会は、試合時間(標準45分ハーフ)をチームの試合競技能力レベルや全体の体力的条件を考慮の上、調整することができる。
 - 4.3.7.2 その際、最短の試合時間は20分ハーフとする。
- 4.3.8 キックオフ
 - 4.3.8.1 ボールは、他の選手に触れられる前に、センターマークから前に向かって蹴り出されなければならない。
キックオフで直接ゴールした場合は得点となる。
- 4.3.9 ボールイン・アウトオブプレー
 - 4.3.9.1 ボールがタッチラインを出た場合はスローインで再開する。
 - 4.3.9.2 ボールがゴールラインを出たらゴールクリアランスかコーナーキックで再開する。
 - 4.3.9.3 ボールの全体がラインを出たらアウトオブプレーとみなす。
- 4.3.10 得点方法
 - 4.3.10.1 ボールの全体がゴール内のゴールラインを越えて、はじめて得点が認められる。
- 4.3.11 ファウルと違反行為
 - 4.3.11.1 トリッピング、プッシング、ハンド、またはチャージングの場合は直接フリーキック、オブストラクションや危険なプレーの場合は間接フリーキックが相手チームに与えられる。

- 4.3.11.2 退場となった選手(2回のイエローカード、もしくは1回のレッドカードを受けたとき)はそのゲームに再び出場することはできない。
その選手を欠いたチームは、1人少ない人数で残りの試合を継続しなければならない。
- 4.3.12 フリーキック
- 4.3.12.1 全てのフリーキックで相手チームの選手は最低9.15m(10yd)離れなくてはならない。
- 4.3.13 ペナルティキック
- 4.3.13.1 ペナルティキックはペナルティマークから行われる。
その際、キッカーとゴールキーパー以外はペナルティエリアおよびペナルティアークの外に出る。
ゴールキーパーはボールが蹴られるまでゴールライン上に留まっていること。
- 4.3.14 スローイン
- 4.3.14.1 ボールが完全にタッチラインを越えたら、最後にボールに触れた選手の相手のチームがボールの出た場所からスローインする。スローインされるまでのボールは静止していなければならない。
投げられたボールが1回転したらインプレーとみなされる。
そのボールが他の選手に触れるまでスローインした選手は再びボールに触れることはできない。
相手チームの選手はスローインされるボールの場所から、最低5m以上離れなければならない。
- 4.3.14.2 スローインからは直接得点はできない。
- 4.3.15 コーナーキック
- 4.3.15.1 守備側の選手の触ったボールが自陣ゴールラインを越えた場合に相手チームに与えられる。
- 4.3.15.2 相手チームの選手はボールから最低9.15m(10yd)離れなければならない。
- 4.3.15.3 炎天下では、競技委員会から派遣された役員(競技責任者など)が、水分補給のための中断(最大3分間)を各ハーフのほぼ中盤で取るよう主審に合図することができる。
- 4.3.16 延長戦・ペナルティキック
- 4.3.16.1 リーグ戦では引き分けで終了する。
- 4.3.16.2 トーナメント方式で延長戦を行う場合、延長時間は7.5分ずつとする。
- 4.3.16.3 延長戦終了後も同得点の場合、ペナルティキックで試合の勝敗を決めることとする。
- 4.3.16.3.1 審判がどちらのゴールでキックをするかを定める。
- 4.3.16.3.2 審判がコイントスをし、勝ったキャプテンのチームが先にキックするかどうかを定める。
- 4.3.16.3.3 各チームから、延長戦があれば延長戦を含む試合の終わりに競技フィールドにいる選手から5名選ぶ。
- 4.3.16.3.4 キックを5回行った後、得点の高いチームが勝者となる。審判がキックの記録を録る。
- 4.3.16.3.5 以下に示す条件で、両チームがキックを5回ずつ行う。
- 4.3.16.3.6 一蹴りごとにチームを交替しながら行う。
- 4.3.16.3.7 5回ずつキックすることになっているが、もし、両チームが5回ずつキックする前に、片方のチームが、相手チームが得点可能な点よりも多くゴールをした場合は、キックは中止する。
- 4.3.16.3.8 もし、両チームが5回ずつキックを終えた時点で、両チームが同点、あるいは共に0点の場合は、同じ順番でキックを行い、同じ数だけキックを行った時点で、片方のチームが相手方のチームより1点多くゴールしているまでキックを続ける。

- 4.3.16.3.9 ペナルティマークの所からキックを行っている時にゴールキーパーが怪我をし、ゴールキーパーが続けられない場合は、名前登録がされている交替選手と交替してもよい。
 - 4.3.16.3.10 前述の場合以外は、延長戦があれば延長戦を含む試合の終わりに競技フィールドにいる選手のみがペナルティマークからキックをできる資格がある。
 - 4.3.16.3.11 試合が終わった時に、相手チームより選手の数が多かった場合は、人数を減らし、両チームが同数になるようにしなければならない。チームのキャプテンは、減らす選手の人数と名前を審判に伝えなくてはならない。審判は、センターサークルにいる両チームの選手が同じであるかを確認しなければならず、彼らがキックを行う。
 - 4.3.16.3.12 各選手がキックを行う。誰かが2回目のキックをする前に、有資格の選手は全員1回キックをしていなければならない。
 - 4.3.16.3.13 有資格の選手が全員1回キックをした後は、一巡目と同じ順番で選手がキックしなくてもよい。
 - 4.3.16.3.14 ペナルティマーク位置からキックがされている時は、有資格の選手はいつでもゴールキーパーと交替してもかまわない。
 - 4.3.16.3.15 ユニファイド・スポーツ®でのペナルティキックでは、各チームは、最初にアスリートがキックをし、その後アスリートとパートナーが交替でキックをしなければならない。
- 4.3.17 ベンチからのコーチ方法
- 4.3.17.1 各チームにはテクニカルエリアが与えられる。
 - 4.3.17.2 テクニカルエリアは長さ15mの長方形内とし、タッチラインから最低5m離れ、かつハーフウェーラインから10m以内の場所に設ける。
 - 4.3.17.3 チームベンチは各テクニカルエリア内に設ける。
 - 4.3.17.4 コーチおよび交代選手は常にチームベンチ領域内にいなければならない。コーチは1人のみ立ち上がってもかまわない。違反した場合には、コーチはフィールドから退場になることもある。
 - 4.3.17.5 コーチは試合中、言葉による応援と指導をすることが求められる。
 - 4.3.17.6 コーチが選手や役員を罵ったり、行き過ぎで不適切な助言を選手に与えたりすることは、スポーツマンシップに反する行為であり、審判は警告を与えることができる。警告後もそのような行為が続く場合は、主審はそのコーチを退場させることができる。

4.4 フットサル

- 4.4.1 スペシャルオリンピックスでの競技ルールはFIFAにより刊行されたフットサルの現行ルールに従う。

4.5 ユニファイド・スポーツ®チーム競技(11人制、7人制、5人制)

4.5.1 選手数

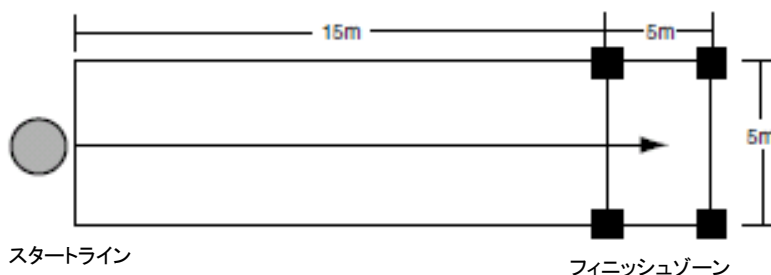
- 4.5.1.1 登録選手はアスリート、パートナー同数とする。
- 4.5.1.2 競技中、チームは以下の人数を超えてはならない
 - 4.5.1.2.1 11人制では1チーム最大11人、最少7人でプレイが可能である。そのメンバー構成は以下の通りである。
 - アスリート6人 パートナー5人
 - アスリート5人 パートナー5人
 - アスリート5人 パートナー4人
 - アスリート4人 パートナー4人
 - アスリート4人 パートナー3人
 - 4.5.1.2.1.1 これらを違反した場合は失格となる。

- 4.5.1.2.2 7人制では1チーム最大7人、最少5人でプレイが可能である。
そのメンバー構成は以下の通りである。
アスリート4人 パートナー3人
アスリート3人 パートナー3人
アスリート3人 パートナー2人
- 4.5.1.2.2.1 これらを違反した場合は失格となる。
- 4.5.1.2.3 5人制では1チーム最大5人、最少3人でプレイが可能である。
そのメンバー構成は以下の通りである。
アスリート3人 パートナー2人
アスリート2人 パートナー2人
アスリート2人 パートナー1人
- 4.5.1.2.3.1 これらを違反した場合は失格となる。
- 4.5.1.2.4 各チームには、競技中のチームの選手構成と行動に責任を持つ、競技に参加しない成人コーチを含まなければならない。

4.6 個人技能競技

- 4.6.1 個人技能競技はドリブル、シュート、およびランアンドキックの3種目からなる。
アスリートは、まず各種目を一度ずつ実施するディビジョニング予選に参加しなければならない。
その総合得点をもとに同じ競技能力レベルのグループにディビジョニングされ、決勝(メダル)へ進む。
決勝ではアスリートは各種目を二度ずつ行い、その総合得点で順位が決定される。

4.6.1.1 個人技能競技一種目 #1:ドリブル



スタートライン

フィニッシュゾーン

4.6.1.1.1 用具

- 4.6.1.1.1.1 4号球または5号球、テープまたはチョーク、フィニッシュゾーン用の大きいプラスチックコーン4個

4.6.1.1.2 方法

- 4.5.1.1.2.1 アスリートは決められたゾーン内をスタートラインからフィニッシュゾーンに向けてドリブルする。
フィニッシュゾーンはチョークやコーンによって印がつけられていなくてはならない。
アスリートとボールの両方がフィニッシュゾーン内で静止した時点で計測を止める。
フィニッシュゾーンを越えてしまった時は、ドリブルしてフィニッシュゾーン内に戻り、静止した時点でゴールとする。

4.6.1.1.3 得点

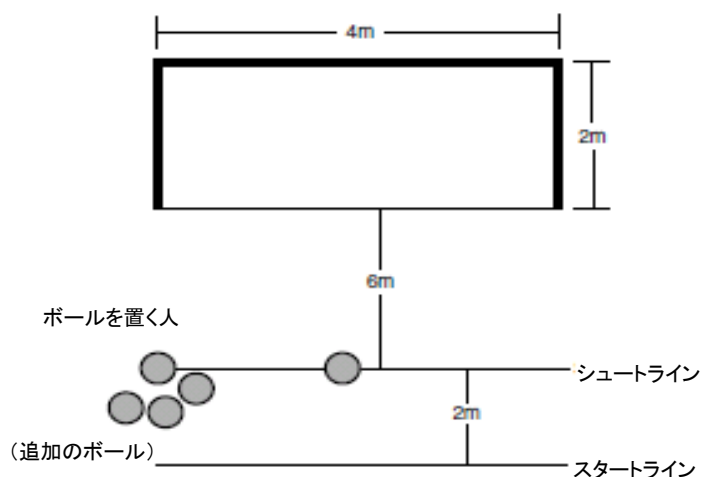
- 4.6.1.1.3.1 次の得点換算表をもとに、所要時間(秒)をポイントに換算する。
ボールがドリブルレーンのサイドラインを超えたり、アスリートが手でボールに触れたりするごとに5ポイントを減点する(注:ボールがゾーン外に出たら、審判は直ちに別のボールを同じ地点の反対側のサイドライン上に置き再開させる)。

4.6.1.1.4 個人技能競技 ドリブル 得点換算表

ドリブル時間(秒)	点数
5.01～10	60
10.01～15	55
15.01～20	50
20.01～25	45
25.01～30	40
30.01～35	35
35.01～40	30
40.01～45	25
45.01～50	20
50.01～55	15
55.01～	10

例:
19.99秒=50点
20.00秒=50点
20.01秒=45点

4.6.1.2 個人技能競技—種目#2:シュート



4.6.1.2.1 用具

4.6.1.2.1.1 5号球または4号球、テープまたはチョーク、4m×2mのネット付き5人制用ゴール。

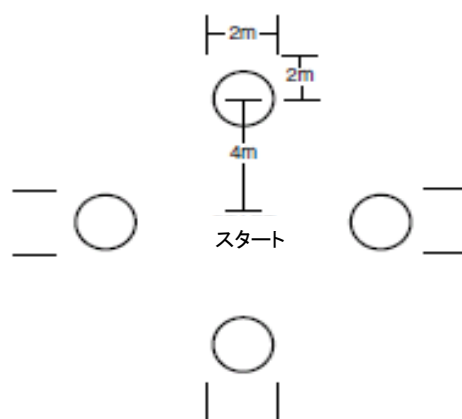
4.6.1.2.2 方法

4.6.1.2.2.1 アスリートはスタートラインから6m離れたシュートライン上に置かれたボールに向かって歩き、または走ってシュートする。
アスリートは1回しかボールを蹴ってはならない。
アスリートは蹴った後スタートラインへ戻り、ボールを置く人(オフィシャル)が次に蹴るボールを置いた後、アスリートは再びシュートする。
シュートは計5回とする。
アスリートが最後のシュートをしたら計測を止める。なお、競技時間は最長2分とする。

4.6.1.2.3 得点

4.6.1.2.3.1 シュート1本成功につき10ポイントが加えられる。

4.6.1.3 個人技能競技—種目 #3:ランアンドキック



4.6.1.3.1 用具

- 4.6.1.3.1.1 ボール4個(5号球または4号球)を使用する。
- 4.6.1.3.1.2 中央にスタートラインをマークする。
- 4.6.1.3.1.3 2m幅のゲート(コーンか旗)をボールから2m離れるように4つ設置する。

4.6.1.3.2 方法

- 4.6.1.3.2.1 アスリートはスタートラインからボールのどれか1つに向かって走り、ゲートの間をボールが通過するようにボールを蹴る。その際ボールを蹴るのは一度だけである。その後、走って次の目標ゲートの間に向かってボールを蹴る。アスリートが4つのボール全てを蹴り終えたら計測を止める。

4.6.1.3.3 得点

- 4.6.1.3.3.1 スタートから全て蹴り終わるまでの時間(秒)を次の得点換算表をもとにポイントに換算する。
- 4.6.1.3.3.2 蹴られたボールがゲートを通過した場合はボーナスポイント5点が加えられる。

4.6.1.3.4 個人技能競技 ランアンドキック 得点換算表

時間(秒)	得点
11~15	50
16~20	45
21~25	40
26~30	35
31~35	30
36~40	25
41~45	20
46~50	15
51~55	10
55 以上	5

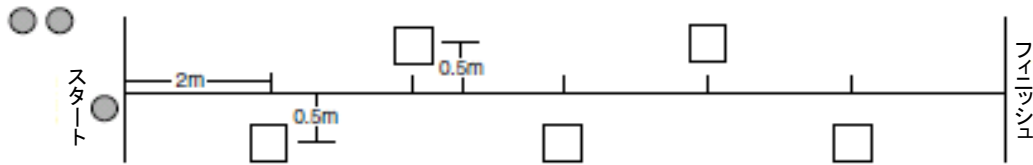
5. サッカー(フットボール)チーム技能評価テスト

5.1 種目

以下に示されるテストは最初のディビジョニングにおいてのみ、選手とチーム能力レベルを測るために使用する。

また、これらはセクション4.6の個人技能競技とは別のものである。

5.1.1 サッカー(フットボール)チーム技能評価テスト—ドリブル



5.1.1.1 準備

5.1.1.1.1 12mドリブルスラローム: 5つのコーン(高さ18in=約45.7cm以上)を中央線から0.5m離し、交互に2m間隔に配置する。また、スタートラインに3~5個のボールを用意する。

5.1.1.2 テスト

5.1.1.2.1 制限時間は1分間

5.1.1.2.2 選手は各コーンの間をできるだけ速くジグザクにドリブルして進む。

5.1.1.2.3 選手はフィニッシュラインを超えてボールを静止させ、スタート地点に走って戻る。

5.1.1.2.4 時間が残っていれば、選手は2個目のボールで同じ動作を行う。

5.1.1.2.5 選手は1分が経過するまで同じ動作を繰り返す。

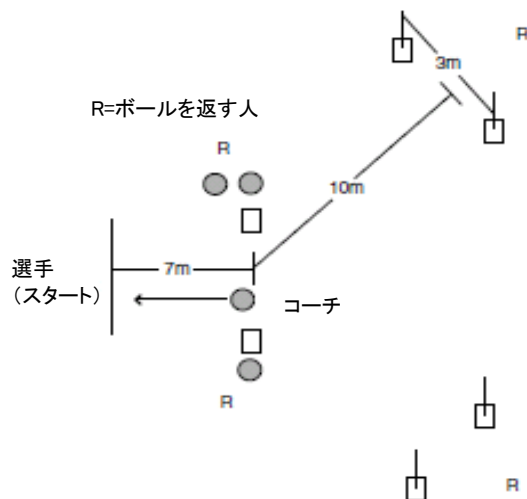
5.1.1.2.6 1分が経過したら、ホイッスルで合図し終了する。

5.1.1.3 得点

5.1.1.3.1 選手はコーン(の外側)を通過するごとに5点を獲得する(1周25点満点)。

5.1.1.3.2 コーンが倒れた場合はカウントしない。

5.1.2 サッカー(フットボール)チーム技能評価テスト—コントロールとパス



5.1.2.1 準備

5.1.2.1.1 スタートラインから7mの地点に5m幅の“通過ゲート”を2つのコーンで配置。

5.1.2.1.2 図に示すように、2つのパス用“目標ゲート”(可能であればコーンと1m高の旗を使用)を配置する。

- 5.1.2.1.3 4～8個のボールを用意(もしボールの数が十分でなければ、ボールは4個でも良いが、その場合は、直ちにコーチにボールを返却できる体制にしておく)。

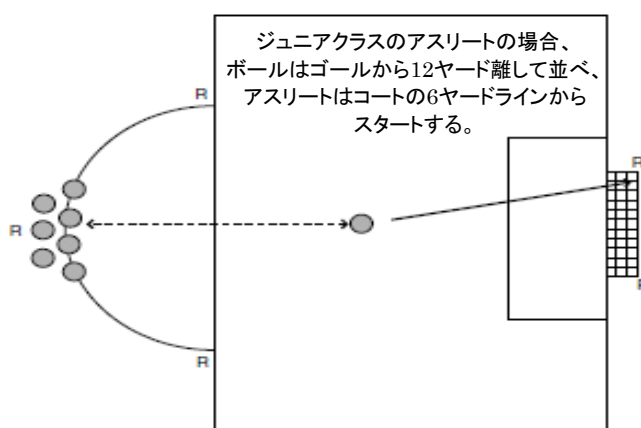
5.1.2.2 テスト

- 5.1.2.2.1 制限時間は1分間。
 5.1.2.2.2 コーチは待機している選手にゆっくりとボールを出す。
 5.1.2.2.3 選手はスタートライン上で待機するか、コーチからボールが出されたらボールに向かって動いてもよい。
 5.1.2.2.4 選手はボールをコントロールし、ドリブルで通過ゲートを通る。
 5.1.2.2.5 コーチは無作為に「左」「右」と指示を送り、具体的に目標を指し示す。
 5.1.2.2.6 選手は目標ゲートにボールを通過させる前なら、ゲートのできるだけ近くまでドリブルで進んでよい。
 5.1.2.2.7 コーチは選手がスタートラインに戻ってきたらすぐに次のボールを出す。
 5.1.2.2.8 1分が経過したら、ホイッスルで合図し終了。

5.1.2.3 得点

- 5.1.2.3.1 目標ゲートを通るパスの成功につき10点を獲得する。
 5.1.2.3.2 ボールがコーンに当たってもゲートを通れば得点は認められる。

5.1.3 サッカー(フットボール)チーム技能評価テスト—シュート



R=ボールを返す人

5.1.3.1 準備

- 5.1.3.1.1 規定のフィールド内のネット付フルサイズゴールとペナルティエリア。
 5.1.3.1.2 4～8個のボールをペナルティエリア内の最前に配置する(もしボールの数が十分でなければ4～5個でボールの回収が素早くできるようにしておく)。

5.1.3.2 テスト

- 5.1.3.2.1 選手はペナルティスポット上からスタートし、1番目のボールめがけて走り、ボールをとる。そして、ドリブルでペナルティエリア内に入り、シュートする。
出来るだけボールが空中に浮くシュートを試みる。
 5.1.3.2.2 シュートはペナルティエリア内であればどの距離から打っても良い。
 5.1.3.2.3 シュートを打ち終わったら、すぐにスタート地点に戻り、同じ要領で繰り返す。
 5.1.3.2.4 1分間が経過したら、ホイッスルで合図し終了する。

5.1.3.3 得点

ボールが空中に浮くシュートでゴールした場合は10点、ゴールに達する前にボールが地面に触れた場合は5点を獲得する。

＜スペシャルオリンピックスのスポーツプログラムを実施するに当たっての留意点＞

スペシャルオリンピックスの正式なスポーツプログラムとして活動する場合には、事前に最寄りの地区組織事務局、又はスペシャルオリンピックス日本事務局にご連絡ください。